

## 220. 野洲町出土の石器資料

### 1. はじめに

県下では、近年資料蓄積の著しい縄文時代以降の遺跡に比べ、これに先行する旧石器時代の資料については、遺跡の存否を含めて不詳なまま今日に至っている。とくに県下での既往の旧石器資料は、大半が表面採集や他時期の遺構からの混入として出土しており、いずれも単独出土に近い形で発見されている。従って該期の遺跡の形成を直接示すような石器群は、これまでのところ確認されていない。このような傾向は野洲町においても同様であるが、過去の遺跡調査の過程において、稀ではあるがこの種の石器が出土しており、その数はこれまで10数点に及んでいる。これらの石器資料は単独出土が大半を占めるため、位置付けの困難なものが多いが、確実に旧石器時代に溯上するナイフ形石器なども一部に認められる。そこで今回誌面をお借りして、これらの石器資料を集成し紹介させていただくと共に、若干の検討を試みてみたい。

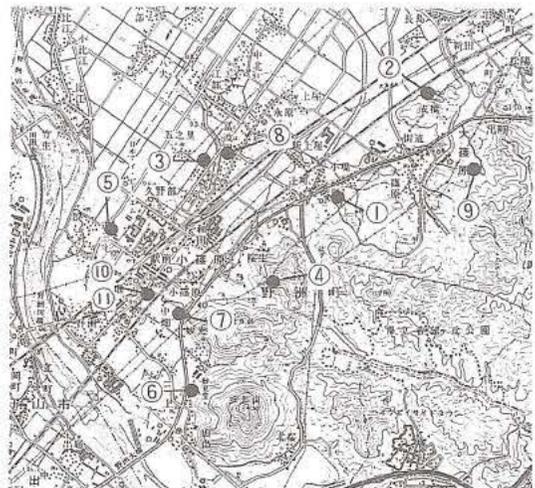
### 2. 出土遺跡について

町内でこれらの石器が出土する遺跡としては、現在11遺跡が知られている。以下に今回掲載した石器資料の出土遺跡名を記しておく。(図面内の番号は第1～第3図とも共通) ①：小堤遺跡、②：夕日ヶ丘北遺跡、③：富波遺跡、④：田中山古墳群、⑤：市三宅東遺跡、⑥：妙光寺遺跡、⑦：安城寺遺跡、⑧：常楽寺遺跡、⑨：大篠原東遺跡、⑩、⑪：下々塚遺跡。またこれ以外では、小篠原遺跡において過去の調査で有舌尖頭器が出土していると言うが、詳細は不明である。これらの石器資料のうち①～④、⑪については、「野洲町史」や既刊報告書に掲載された資料を再録した<sup>①</sup>。⑤～⑩については、現在報告書未刊の資料を新たに実測したものである。なお実測図とトレースは、既刊・未刊を含めて、全て筆者が作成した。

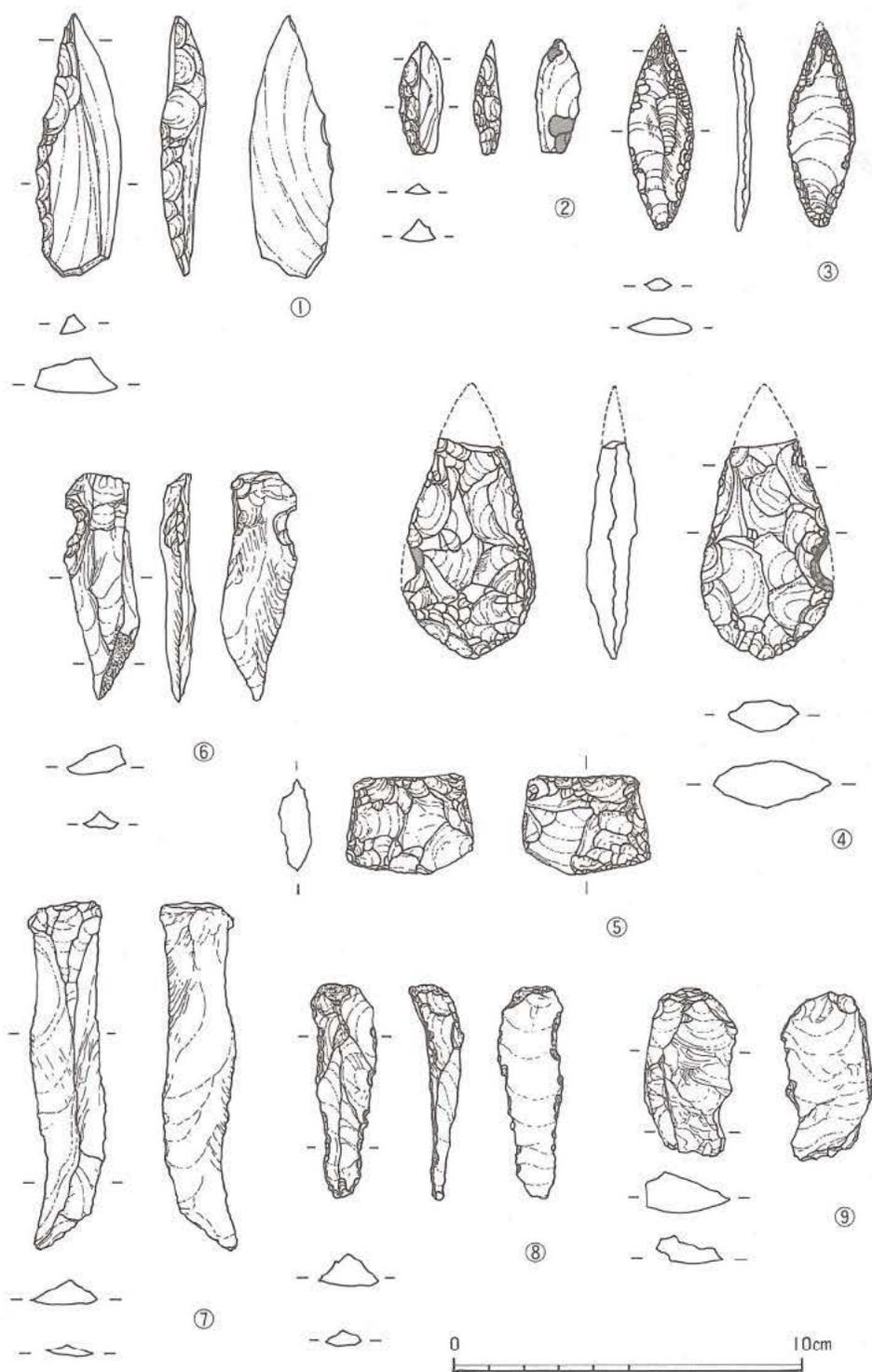
### 3. 石器資料について

出土した石器の種類としては、ナイフ形石器、尖頭

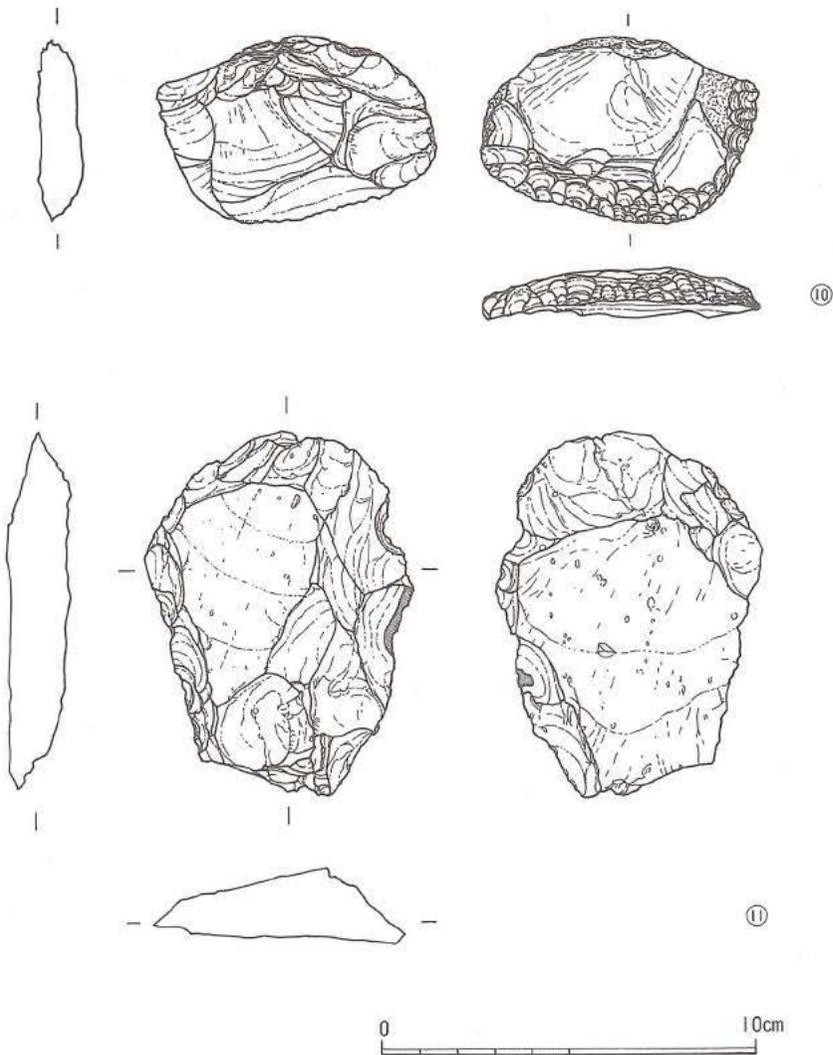
器、楔形石器、石刃ないしは縦長剥片(リタッチのあるものを含む)、削器、石核がみられる。また石器の素材としては、サヌカイトとチャートの二種が認められる。以下に各個別の石器資料について言及する。まず①は、典型的な国府型ナイフ形石器である。材質はサヌカイト。形態は、片刃の槍先状を呈する。瀬戸内技法によって剥取された翼状剥片を素材とし、主要剥離面側からの急角度の調整剥離(プランティング)によってバルブを取去っている。また下端は3か所を腹面側から折り取り、基部を形成している。幅2.4cm、長さ1.1cm、厚さ1.1cmを数える。横断面の形状は台形を呈する。全体に風化が激しく、灰白色を呈する。このため、リング、フィッシャーなどの観察は困難である。②は、小型の横長剥片を素材としたナイフ形石器である。①と同様素材にはサヌカイトを用いる。やはり主要剥離面側から急角度の剥離によってプランティングを行うが、背面側からの加撃も一部に認められる。下端は腹面側から加撃して折り取り、基部を形成する。幅1.2cm、長さ3.3cm、厚さ0.7cmを数える。横断面の形状は、三角形を呈する。風化が著しく、色調は灰白色を呈する。③は、チャート製の石刃を素材とした尖頭器である。打面側を基部とし、刃部の両側縁に沿って細かなリタッチを加え、全体を美しい柳葉形に仕上げている。先端の一部を欠失するが、幅1.9cm、長さ5.8cm、厚さ0.5cmを数える。横断面の形状は、凸レンズ状



第1図 石器資料出土位置図(縮尺10万分の1)



第2図 野洲町出土石器資料実測図(I)



第3図 野洲町出土石器資料実測図(II)

を呈する。チャートそのものの質は非常に良く、色調は淡茶褐色を呈する。④は、大型の木葉形尖頭器である。素材はサヌカイトを使用する。おそらく剥片素材であろうが、両面とも全面に調整剥離が及んでおり、素材剥片の痕跡は認められない。先端及び側面の一部を欠失する。幅3.8cm、残存長6.4cm、厚さ1.3cmを数える。横断面は凸レンズ状を呈する。風化はあまり著しくはないが、全体に灰色を呈する。⑤は、サヌカイト素材の楔形石器である。形態は、正方形に近い五角形を呈する。パイポーラ・テクニク(両極技法)により、側縁のエッジが細かく潰れているが、中央に素材剥片の一部剥離痕(ポジ面)が残る。幅2.8cm、長さ3.6

cm、厚さ0.9cmで、横断面は凸レンズ状を呈する。風化はそれ程進んでおらず、明青灰色を呈する。なお本例は方形周溝墓の周溝内から出土しているが、付近からは同時に縄文後期初頭の中津式土器が出土している。⑥は、一部に調整剥離(リタッチ)のみられる、サヌカイト製の縦長剥片(石刃)である。主要剥離面側には打点及びバルブ痕が明確に観察できる。剥片末端の刃縁に沿って、フィッシャーが発達している。背面は大きく3つの剥離痕で構成されるが、右側下端の一部に自然面が残る。また背面左側(腹面右側)のやや上方において、抉状のリタッチを加える。幅2cm、長さ6.7cm、厚さ0.8cmを数える。断面の形状は三角形を呈

する。風化はそれ程でなく、明青灰色の色調である。⑦は、サヌカイト素材としては珍しい、良好な石刃である。主要剥離面側には打点、バルブが観察され、刃縁に沿ってフィッシャーが発達するが、剥片の縦断面にアンジュレーションはみられず、打撃力が末端まできれいに抜けている。背面は、大きく2つの剥離痕がみられるが、打面近くに細かな石核調整の痕跡がみられる。横断面は、基本的に三角形を呈する。幅2cm、長さ6.2cm、厚さ0.9cmを数える。風化はそれ程進行しておらず、明青灰色を呈する。⑧は、チャート製の石刃である。石刃は、自然面の打面を直接加撃して剥取している。両側の刃縁に沿って、イレギュラーなリタッチを施す。背面の剥離痕はリングが良く発達しているが、主要剥離面側は石刃の末端がやや波打つ程度である。幅1.8cm、長さ6.2cm、厚さ0.9cmを数える。横断面の形状は、三角形である。色調は濃緑灰色を呈する。⑨は、チャート製の縦長剥片である。チャートの質はあまり良くなく、節理に沿って所々が階段状に打裂している。腹・背面ともリングの発達が著しい。また腹面の右側縁(背面の左側縁)の一部に自然面が残る。幅2.5cm、長さ4.8cm、厚さ1.1cmを測る。色調は淡緑灰色を呈する。⑩は、サヌカイトの横長剥片を素材とした削器(スクレーパー)である。腹面側には主要剥離面が大きく残り、打点、バルブ及びフィッシャーが観察される。なお打面は自然面打面とする。自然面はこの他にも、腹面側の左右二か所に認められる。一方背面は周囲から中央に向かって加撃・剥取された比較的大きな剥離痕で構成されるが、加撃の角度が深いため剥離痕の末端が階段状に大きく抉れている。一方スクレーパーの刃部は、背面側から腹面側に向けて、細かく緻密なリタッチを連続的に加えて形成している。幅7.5cm、長さ5.1cm、厚さ1.2cmを測る。風化はそれ程ではなく、明青灰色を呈する。⑪は、大型の剥片を利用した、サヌカイト素材の石核の残欠と考えられる。形態は背面が亀の甲状を呈し、周辺から背面の中央に向かって、腹面側から加撃して剥片を剥取している。背面中央に残存する大剥離痕は、石核調整段階のものであろう。また腹面側においても、背面側から加撃し剥取された剥離痕がいくつか観察される。幅7.2cm、長さ9.8cm、厚さ1.9cmを測る。断面の形状は、縦、横とも幅広の台形状である。全体に風化が著しく、色調は灰白色を呈する。

#### 4. 小結

以上が出土した石器資料の概略である。このうち①、②の2点のナイフ形石器は、確実に旧石器時代に位置付けられる資料である。とくに①の国府型ナイフ形石器は、後期旧石器時代の瀬戸内地域を中心に盛行をみ

る特徴的な石器であるが、県下での出土は少なく、これまでのところ大津市蜚谷遺跡などで出土が報告されている程度である<sup>②</sup>。また②のナイフ形石器は、小型で翼状剥片を用いたかは不明であるものの、やはり旧石器時代の所産と考えられる。以上の2点のナイフ形石器については、旧石器時代と是認できる石器資料であろう。さらに③～⑪の石器資料のうち、④、⑤、⑩の3点の石器については縄文時代まで降るものと考えられるが、残余の石器資料については、比較できる類例資料に乏しく、正確に位置付けることは難しい。この中で剥片類については石質がチャート、サヌカイトを問わず、石刃が多いのが特徴的である。とくに⑦は、サヌカイト素材のものでは珍しい良好な石刃資料である。これらの石刃技法を生み出した技術の系譜や集団が、どのような出自を有するのか非常に興味深い。資料自身断片的なものに過ぎないことから、帰属時期の問題を含めて将来的な課題としたい。現在県下では、丸山竜平氏<sup>③</sup>や角上寿行氏<sup>④</sup>の先駆的な業績はあるものの、該期の石器研究は資料紹介を含めてきわめて少ない。これは生活の痕跡を示す遺跡自体が皆無に近いことに起因するが、最近琵琶湖湖岸沿いの標高80m内外の位置において、縄文草創期の遺跡やアカホヤ火山灰が検出されている。このことより、旧石器遺跡についても、低湿地性遺跡の存在が想定されている<sup>⑤</sup>。一方野洲町は標高100m内外の野洲川右岸扇状地にあるものの、南側は水口丘陵北端に接している。このため野洲町付近では沖積層が薄く、きわめて浅い深度で旧石器時代の生活面が検出できる可能性がある。従って、遠からず良好な石器群の発見されることを大いに期待し、小文の結としたい。

なお、小文を作成するにあたり、京都大学の山一郎先生より貴重なご助言を賜った。また資料指示については米原町教育委員会中井均氏に、資料提供については杉本源造氏にご配慮いただいた。文末ではあるが記して感謝申し上げます。(森 隆)

#### 註

- ①以下に収録刊行物を記しておく。野洲町文化財資料集1982-2、1986-3、1992-2、『富波遺跡発掘調査概要』1983、『野洲町史第1巻通史編1』1987、(以上編集・発行は野洲町・野洲町教育委員会)
- ②滋賀県教育委員会、(財)滋賀県文化保護協会『蜚谷遺跡・石山遺跡』1992、この他に米原町での国府型の出土例について、中井均氏よりご指示を得た。
- ③丸山竜平『原始社会の生成』『八日市市史』1983
- ④角上寿行『滋賀県の旧石器についての一考察』『滋賀考古第4号』1990
- ⑤中井均、中川和哉『滋賀県米原町出土の石器』『旧石器考古学39』1989